

授業改善書

科目名	科学史
担当者	菊地重秋

授業の概要

近代科学は16世紀に誕生して以来、人類の生活改善や生産活動・経済発展に大いに貢献しており、社会に不可欠です。しかし他方で、核兵器や環境問題など様々なマイナス面も生み出しています。授業では、科学・技術の歴史をたどり、基本的知識を得るとともに、科学・技術の社会的役割や、科学・技術と社会との関連について考えます。なお、科学・技術の大まかな内容は紹介しますが、詳しい中身には立ち入りません。

授業の問題点

(1) 従来は、授業終了時間を厳守してほしい、授業が速すぎるのでゆっくり進めて欲しい、等が多かった。2016年度からゆっくり進め、「時間が来たなら終了・続きは次回まわし」を徹底した。そのためか、質問事項「90分の授業を適切・有効に使っていましたか(分量やスピードなど)」の回答平均が2015年度3.00→2016年度4.12→2017年度4.33→2018年度4.21→2019年度4.60と改善したようである。

(2) 履修登録23名、出席回数5回未満6名、テキスト入手約10名、期末テスト受験16名、うち合格11名、受験16名の成績評価の平均64.3点だった。ガイダンスで成績評価の仕方を説明したが、小課題などを提出した学生は、いずれも10名以下だった。テスト対策の相談日を16週目に設けたが、相談に来た学生は10名未満だった。テスト対策の練習問題を配布したが、積極的に取り組んだ学生も10名未満と思われる。

(3) スライド原稿の切り替えが速いので「板書丸写し」が間に合わないと感じている学生が散見された。

学生の授業満足度

(1) アンケート項目「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」の回答平均は2018年度3.79→2019年度4.50だった。今後も改善に努めたい。

(2) アンケート項目「学生による主な意見」の回答は、2018年度は1件で「楽しい雰囲気です。学べる講義だった」だったが、2019年度は特になかった(0件)。

授業改善の課題と方策

(1) 授業参加・理解の促進のため学生に当てているが、引き続き、答えやすい質問を心がけたい。すぐ手が上がらないとき、ヒントを出すなど工夫したい。

(2) 質問に対する回答その他の有用な「発言」、「小課題」、「映像資料感想カード」、及び「期末試験」の合計で成績評価が決まることを繰り返し指摘し、どこで頑張るか考えるように、自分が得意なところで頑張るように、学生に求める。

(3) スライド原稿を板書と見立ててノートをとる場合、要点に限るように指示する。テキストをノート代わりに利用し、予習・復習のときマーカーで印をつけ、メモを書き込むように推奨する。スライド原稿は、要点が一目で分かるよう、引き続き改善する。

(4) 授業中の私語は、もしあれば、本人及び周囲にマイナスであることを強調し、直ちに静粛にするように求める。

その他

(1) 採点済み小課題やエンマ帳等は、採点・記入のミスがないか確認する意味も含めて、学生に公開している。今のところ苦情もないので、むしろ学生は確認したがっているため、引き続き公開する。

(2) 期末テスト対策に積極的に取り組むよう学生に求める。対策用の練習問題は、利用しやすく改訂し、学期の始めに印刷・配布し、活用を繰り返し求める。また、引き続き、テスト対策の相談日を16週目に設けて出席するよう求めたい。